

生物的防除部会

平成 30 年度 第 3 回講演会のお知らせ

生物的防除部会 平成 30 年度第 3 回講演会を下記のとおり開催いたします。
会員の皆様はじめ多くの方々のご聴講くださいますようご案内いたします。

記

日 時 : 平成 31 年 2 月 21 日 (木) 午後 2 時 00 分～5 時 00 分

場 所 : 東京農業大学 世田谷キャンパス 1 号館 4 階 433 教室

講演会 :

演題 1 「PMにおける炭酸ガス施用技術の普及状況と今後の展望」

株式会社アグリクリニック研究所 村井 保 氏

< 講演要旨 >

施設栽培においては害虫の寄生しない苗を植え付けることが IPM の基本中の基本である。とりわけ、イチゴのハダニは抵抗性の発達著しく、IPM の最大の課題となっている。定植直前のイチゴ苗の高濃度炭酸ガス処理はイチゴの生育に障害なく、定植後のハダニの発生を長期間抑制できる。処理時の温度が 25℃以上確保できれば完全な防除も可能である。初期のハダニをリセットすることができるので、天敵利用も、安定的に高い効果をあげることができる。2013 年、高濃度炭酸ガスの農薬登録が認可され、処理装置が 3 社から市販されている。2018 年現在、東日本を中心に 100 人以上の生産者が導入し、高い効果を得ていることから、各地で導入希望が伝えられている

演題 2 「バンカーシート普及の現状と今後の展望」

J A 全農 肥料農薬部 農薬課 西川 洋史 氏

< 講演要旨 >

J A 全農は、29 農薬年度（平成 28 年 12 月）から「バンカーシート」関連品目の取扱いを開始した。「バンカーシート」は、温湿度などの環境変化、散水や化学農薬散布などの影響から内部の天敵を保護することで天敵に好適な環境を提供し、その増殖を助ける機能を持っている。スワルスキーカブリダニやミヤコカブリダニの天敵パック製剤とセットにした「スワルバンカー」「ミヤコバンカー」として供給している。

現在までに、いちご、きゅうり、なすなどの施設果菜類で普及が進んでいるが、施設花卉類や施設・露地栽培の果樹類でも、積極的に実証試験を展開している。J A 全農は、「バンカーシート」をきっかけに、IPM の普及に貢献していく。

演題 3 「土壌病害虫診断事業の実践事例と課題ー IPM への貢献ー」

アグロカネショウ(株) 技術普及部 普及課 石本ゆに 氏

< 講演要旨 >

当社は農薬の製造・販売メーカーである。創業以来「農家とともに」をモットーに、現場密着型の技術普及活動を展開してきた。特に作物栽培の基本となる土づくりの場面において、バスアミド微粒剤・ネマキック粒剤等の普及を図ることで、連作障害の要因の一つである土壌病害虫対策に取り組んできた。2015 年からは土壌病害防除を目的とした土壌分析事業を立ち上げ、化学性分析とともに生物性分析を行っている。本講演では「健康診断に基づく土壌病害管理（ヘルソディム）」を活用した実践事例、当社土壌分析事業における課題などについて紹介する。

なお、講演会の参加費 一般：2000 円

生物的防除部会会員・学生・農大教職員・報道関係者：無料

講演会終了後、講演者らを囲んでの情報交換会（参加費 3000 円）を予定しています。ぜひご参加ください。

↑ 講演会への参加申し込み・お問い合わせは

生物的防除部会会長 根本 久 nemoto.biocont@gmail.com までお願い致します。